

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	北川 修平
学位授与の要件	学位規則第4条第1・②項該当		
論文題目			
<p>スポーツにおけるトレーニングとマネジメントの統合に向けた身心学習研究 —現象学から生態学的組織論への思想的展開を通して—</p>			
論文審査担当者			
主査	准教授	上泉 康樹	印
審査委員	教授	和田 正信	印
審査委員	教授	桑島 秀樹	印
審査委員	教授	長谷川 博	印
審査委員	准教授	田中 亮	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>申請者である北川氏の研究は、メルロ＝ポンティの現象学的身体論を集団球技スポーツにおける組織論へと理論拡張することと、スポーツ現場における組織運営の改善に向けた一契機となることを目的とし、集団球技スポーツにおけるトレーニングとマネジメントを統合することが研究課題であった。また本研究を通じた通奏低音として現象学による暗黙知—LPP（正統的周辺参加）—SECI モデル—生態学的心理学の架橋と捉えなおしを行い、このことを通じた現象学の学問的・思想的・歴史的発展と展開について明らかにすることが理論的意義としている。</p> <p>本論文の構成は、序論、第1章：メルロ＝ポンティの現象学的身体論、第2章：身体知を基盤とした個人知と組織知の統合、第3章：生態学的学習論、および結論となっている。まず第1章では、メルロ＝ポンティにおける身体論への考察を通して「触媒」としての身体という新たな身体の像を提示し、身体を原初的世界という母液から、ある知覚されたものという結晶体を凝集させる「触媒」として捉えることに成功している。また第二章では、ポランニーの暗黙知とメルロ＝ポンティの身体図式が、「語ることができない知」の同義語の関係にあり、暗黙知が身体知に含まれることを明らかにしている。このことから、現象学的身体論における潜勢的身体における知として暗黙知は存在し、それは現象学の言葉では潜勢的身体知と言い換えることが可能であり、暗黙知（潜勢的身体知）が現勢化した現勢的身体知が存在し、これらが統合されたものとして現象的身体が獲得する知として身体知を捉えることが可能となっている。さらに第3章では、超個体と自律分散型のティール組織がともに生態学的組織であり、エコロジカルトレーニングの思想的基盤には、生態学的心理学とダイナミカル・システム理論が統合されたエコロジカル・ダイナミクスが存在し、理論的原則（アフォーダンスへの知覚的同調・準安定状態における適応的運動性の探索・神経学的システムの縮退の利用）／方法論的原則（個人的制約・環境的制約・タスク制約）／一般原則（注意の教育・校正の教育・意図の教育）がフラクタルな構造をなしていることを明らかにしている。</p> <p>以上の考察結果により、北川氏は、トレーニングとマネジメントの統合とは、生態学的組織に向けて、トレーニングの側面からは超個体を目指し、マネジメントの側面からはティール組織を目指すことで、トレーニングとマネジメント双方を通して共通した生態学的組織という組織を達成するものであると結論づけている。</p> <p>なお、本研究の実践的な意義としては、本研究で明らかとなった理論的基盤が、集団球技スポーツにおいて伝統的な分習法トレーニングを実際の試合やチーム組織に即した総合トレーニングへと変革していく可能性を持つことが示唆されている。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			
備考 要旨は、1,500字以内とする。			